

第5章 研究のまとめ

1 本研究のまとめ

本研究では、昨年度に引き続き「情報教育推進のための教職員研修の在り方 - 小・中学校における校内研修の在り方を中心として - 」をテーマに、情報教育に関する校内研修について研究協力校の協力を得て、具体的な実践を基に考察した。

考察するに当たって、次の三点を柱立てにして研究を進めた。

情報教育に関する校内研修の充実を図るための方策

情報教育に関する遠隔研修を試行するためのシステム・教材の開発と実施上の課題の整理
ホームページ型の教材作成のためのツールの開発

(1) 情報教育に関する校内研修の充実を図るための方策

現在、学校で行われている情報教育に関する校内研修をより充実した研修にするために、次の観点で考察し、課題解決に向けて方策を示した。

ア 校内研修の現状を踏まえ、今後の研修方法の視点を明らかにした。

- ・学校課題に対応した情報教育の目標の設定
- ・教職員の個別課題に合った目標の設定
- ・これらの目標を基にした具体的な達成目標の設定とその研修内容の選定
- ・研修内容に応じた多様な研修形態の選択
- ・様々な研修機会をとらえ、意図的に情報手段を活用する研修の実施
- ・「わかる授業」の実践を目指すコンピュータを活用した研究授業の実施

また、情報教育以外の校内研修における情報活用能力を身に付ける研修として、ある学校の校内研修計画を基に具体例を示すことができた。

さらに、情報活用能力を育成するために、児童生徒の視点に立った校内研修の具体例を示すことができた。

イ 校内研修での指導者の在り方について、校内体制の機能化と校内研修における役割の二点から考察し、その方策や留意点を明らかにした。

(ア) 校内体制の中で情報化推進リーダー等、指導者に求められる資質を明らかにするとともに、継続的、機能的に情報化を推進するための指導者養成の取組として、実践的なグループ研修や作業の共同化について提案した。

(イ) 校内研修における指導者の役割として、次の三点から考察した。

- ・教職員の研修ニーズを踏まえた研修計画の作成
- ・教職員一人一人の状況の把握
- ・校内研修の実施にかかわる教職員へのサポート

ウ 校内研修の課題設定と評価活動について、次のことを明らかにした。

(ア) 研修課題を明確にする過程を、学校の教育計画を例にしてこれに当てはめ、研修課題を明らかにする検証を行った。

(イ) 学校の情報教育年間指導計画例を基に、校内研修の課題を設定するとともに、研修の具体例を示し、研修のねらい、達成目標、研修形態、研修の過程をそれぞれ明示した。

(ウ) 校内研修の改善、充実につなげる評価として、事前チェック表、自己理解度チェック表、アンケート、研修評価表や評価一覧表を作成し、そのねらいを明らかにした。

(エ) 教育活動や学校経営に係る評価として、計画(Plan) 実践(do) 点検(Check) 行動(Action)のサイクルの事業評価・改善の手法を取り入れた方策を紹介した。

(2) 遠隔研修システムの試行

今後急速に発展すると予想される遠隔研修を試行的に実施するために、システムや教材の開発を通じて、その可能性や課題を明らかにして今後本格的実施のためにデータを収集した。

ア 試行したシステムの概要

既存の校内LANに影響しないよう閉じたシステムとしたため、直接インターネットにつながらず、真のe-Learningシステムではないが、ノート型パソコン7台(簡易サーバ1台、クライアント機6台)とプリンタによる無線LANを構築した。

遠隔研修システムとして、個人認証、教材選択、教材提示、課題演習、評価・進捗、意見交流、質問・回答の7項目を随時選択して研修できるようにした。

イ 教材の開発

教材として次の3コースを準備した。

(ア) プレゼンテーションを使った教材作成

(イ) ホームページの作成

(ウ) 情報モラル

ウ 遠隔研修に対する受講者の反応と課題

(ア) 受講者の感想

「学校の忙しさなどから、遠隔研修などいつでもできる研修は、逆に個人的な時間を確保しにくい。講師がその場にいらないので即座に質問ができない。」等の意見が寄せられた。

(イ) 課題

今後遠隔研修を実用化するための改善点として、次の点が明らかになった。

- ・他の研修方法との組み合わせ
- ・選択範囲が広い教材
- ・実施期間を区切った研修
- ・教材内容の単純化

(3) ホームページ型教材の作成と運営

教職員が児童生徒向けに学校や自宅で利用できる学習教材を簡単にインターネット上に発信するためのホームページ型教材の問題集作成ツールを開発し、一部試行した。

その結果、校内研修や学習指導など広く活用できることが明らかになった。

開発に当たっては、次の2点を考慮した。

- ・教職員が日常的に触れているソフトで作成できる。
- ・学校ホームページや校内LAN上に教材を置き、ブラウザで実行できる。

開発した結果、次のような利点が明らかになった。

- ・教材作成の所要時間が極めて短時間で済む。
- ・教科学習の予習・復習として家庭学習の支援に役立つ。

ホームページ型教材の開発で、次のような機能をもたせた。

- ・学習履歴をクライアント機に記録する。
- ・アンケートなどメールの集計を行う。

2 今後の課題

次の点について研究を深めることが課題である。

(1) 情報教育に関する校内研修の充実を図るための方策

- ア どの学校でも使える個人の研修レベルを把握するチェック項目の作成
- イ 研究授業等で使用された実践資料をデジタル情報としてデータベース化し、広く利用できるシステムの開発
- ウ 情報教育アドバイザー等の異なる職種の方と指導者との連携の在り方

(2) 遠隔研修システムの試行

- ア 他の研修形態と組み合わせた遠隔研修の試行
- イ 遠隔研修に適する教材の開発におけるシステム化、簡略化の推進
- ウ 情報教育以外の研修項目での試行

(3) ホームページ型教材の作成と運営

- ア 学校の学習指導における実施とその検証

本研究を通して、「研修の先に子どもたちへの授業が見える」という授業でのIT活用に即した研修を重視するとともに、各学校の実態を踏まえ、研修目的、研修課題の明確化、研修の評価活動を通じた指導力の向上、学校改善など効果的な研修の在り方を中心に検討を進めてきたが、これらについては、今後の実践の中で一層実態に即したものと具体化されることを望みたい。

参 考 文 献

- 文部科学省（平成14年） 情報教育の実践と学校の情報化 ～新「情報教育に関する手引」～
- 文部科学省（平成14年） 「ITで築く確かな学力～その実現と定着のための視点と方策」報告書（初等中等教育におけるITの活用の推進に関する検討会議）
- 文部省（平成11年） 養成と採用・研修との連携の円滑化〔第三次答申〕（教育職員養成審議会）
- I P A , C E C（2001） Eスクエア・プロジェクト「ネット社会の歩き方」
(<http://www.net-walking.net/>)

お わ り に

本教育資料は、「情報教育推進のための教職員研修の在り方」を研究主題として、情報教育部を中心に研究事業プロジェクトが編集に当たりました。また、本年度は、次の方々にお世話になりました。本研究事業にご協力いただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

[平成14年度]

スーパーバイザー

京 都 教 育 大 学 講 師 佐々木 真理

研究協力校

八幡市立八幡第三小学校
向日市立寺戸中学校

研究協力員

八幡市立八幡第三小学校 教 諭 鬼頭 宣孝
向日市立寺戸中学校 教 諭 池田 穂高

《学校教育情報データベース入力情報》

主 題 名：情報教育推進のための教職員研修の在り方（第2集）

副 主 題 名：小・中学校における校内研修の在り方を中心として

著 者 名：中桐 安子

掲 載 誌 名：京都府総合教育センター・教育資料平成14年度第3号

刊 行 年 月：2003年03月

掲 載 ページ：00001～00094

キ ー ワ ー ド：情報教育、教職員研修、情報活用能力、研修評価、遠隔研修、e-Learning

研 究 対 象：情報教育

研 究 方 法：調査研究、実践研究

文 献 種 類：教育資料

内 容 要 約：情報教育に関する校内研修について、研修方法、指導者養成や研修評価の観点で検討し、校内研修の充実を図るために様々な工夫・改善を加えた校内研修事例を示した。遠隔研修では試行として具体的なシステムと教材を開発して実施し、受講者の意見をまとめて、本格実施に向けた検証を行った。研修題材として学習教材をインターネットに発信するための作成ツールを開発して、その概要を解説した。

要約作成者：浅尾 彰俊（京都府総合教育センター）

保存機関名：京都府総合教育センター

教育資料 平成14年度第3号

情報教育推進のための教職員研修の在り方(第2集)

- 小・中学校における校内研修の在り方を中心として -

発 行 平成15年3月
京都府総合教育センター
〒612-0064 京都市伏見区桃山毛利長門西町
T E L 075-612-3266
F A X 075-612-3267
ホ ー ム ペ ー ジ URL <http://www1.kyoto-be.ne.jp/ed-center/>
E-mail ed-center@kyoto-be.ne.jp